

視覚障がい者誘導用ブロック (JISタイプ)

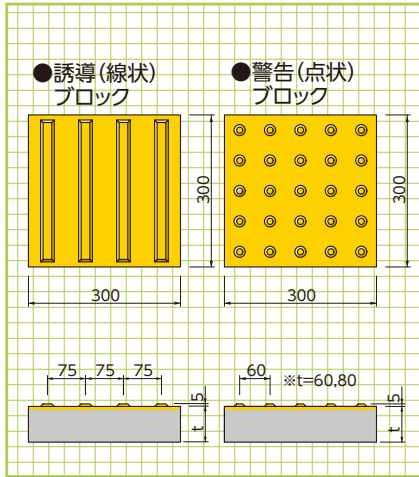
●特長

1. JIS規格に沿った形状

下図に示すように、JIS規格に沿った形状です。

2. 2種類の厚みをご用意

厚み (t) 60、80mmの、2種類を取り揃えています。

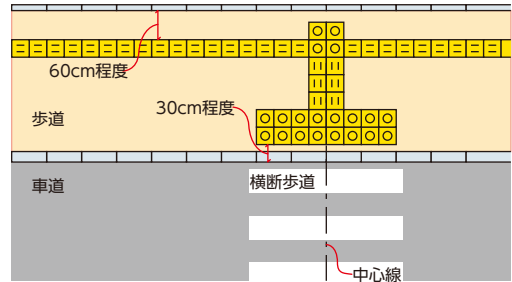


写真は厚み60mm

※大型車両が乗入する箇所では、破損の恐れがありますのでご注意ください

●写真の製品の色は、印刷のため色調や質感が実物と若干異なる場合があります。

視覚障がい者誘導ブロック敷設のポイント



視覚障がい者用誘導ブロックとその周辺の舗装材に対して輝度比を要求される場合の配慮について

「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」(国土技術研究センター発行)において、「一般的に視覚障がい者誘導用ブロックは黄色と認知されており、黄色が良いとする意見も多いため、黄色を基本とするが、路面の色彩が類似している場合、周囲の路面との輝度比を2.0程度確保することにより視覚障がい者誘導用ブロックが容易に識別できることが必要である。」と記載されており、昨今、舗装材の割付けにおいて「輝度比」を要求される事例が増加しつつあります。

※詳しくは営業担当にご相談ください。

【輝度とは】

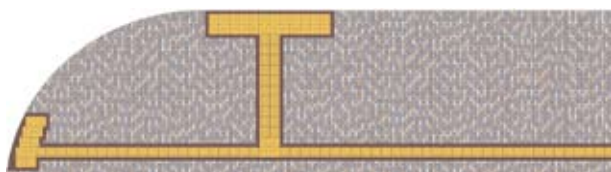
観察者から見て対象がどのくらい明るく見えるかを示すもので、対象の色や照明の強さによって変化します。同一の照明の下で2つの対象物の輝度を測定して輝度比を求めることができます。輝度比の求め方は何種類ありますが、誘導ブロックと周囲(歩道路面)の輝度を測定してその比を求めるのが単純な方法です。輝度の比が大きいほど明暗のコントラストが大きくなります。

$$\text{輝度比} = \frac{\text{誘導用ブロックの輝度 (cd/m}^2\text{)}}{\text{歩道路面の輝度 (cd/m}^2\text{)}}$$

cd/m²:輝度の単位
光源の表面の明るさの度合いを表す数値で、単位面積あたりの光度(cd:カンデラ)の度合いで決まる。

【輝度比を考慮した割付図例】

スタンダードの「ライトグレー」「オフホワイト」「サンド」を基調にした舗装パターンだが、「誘導ブロック」の両脇に「ダークブラウン」を敷設する事で、輝度比を強調。



プラストの「サンド」「オーカー」を基調にした舗装パターンだが、「誘導ブロック」の両脇にスタンダードの「ダークブラウン」を敷設する事で、輝度比を強調。

